

「目鼻口に触らない」の実施率は依然として低く、 予防行動に関する行動変容は男性と低所得者で少ない

—COVID-19 アウトブレイク時における一般市民の予防行動に関する研究結果—

【ポイント】

- 2020年2月と4月に日本人男女2400人を対象にインターネット調査を実施しました。
- WHOが推奨する5つの予防行動の実施率は、2月と比較して4月では多くの項目が改善していましたが、「目や口や鼻に触らない」という予防行動の実施率は6割程度のままで改善がありませんでした。
- 予防行動に関する行動の改善は、男性および世帯年収が少ない方で少ないことが明らかになりました。

東京医科大学公衆衛生学分野の町田征己らは、関東地方在住の20-79歳の男女2400人を対象に、新型コロナウイルス感染症アウトブレイク時における一般市民の予防に関する考えと行動に関するインターネット調査を2020年2月25日と4月1日に実施しました。

2月と4月での予防行動の実証状況の変化を分析し、その研究成果が2020年5月17日に国際医学雑誌 *International journal of infectious diseases* オンライン版で発表されました。

【研究成果の概要】

国内流行の初期段階であった2020年2月25日に、関東地方在住の20歳から79歳の男女2400人にWHOが推奨している5つの予防行動（石鹸による手洗いや手のアルコール消毒、人混みを避ける、目や口や鼻を手で触らない、咳エチケット、体調が悪い時は家で過ごす）¹の実施状況をインターネット調査で回答してもらいました。その後、経路不明の感染者が急激に増加し緊急事態宣言が出される直前であった4月1日に、同一の対象者に再度5つの予防行動の実施状況を回答してもらいました。

4月時点での予防行動の実施率は、多くの項目で改善が認められ、特に「人混みを避ける」という予防行動の実施率は67.4%から82.2%に改善を認めました。一方で、「目鼻口に触らない」という予防行動は改善が乏しく、4月の時点でも実施率は61.8%のみでした。また、男性および世帯年収が少ない方に予防行動を始めたものが少ないことがわかりました。

「3密を避ける」ということが広く普及したことで「人混みを避ける」という予防行動の実施状況は大幅に改善を認めました。一方で、「目や口や鼻を手で触らない」という予防行動の啓発が今後の課題である事が明らかとなりました。また、男性と世帯年収が低い方で行動変容が少なく、これらの方への啓発と社会的支援が必要であることも明らかとなりました。

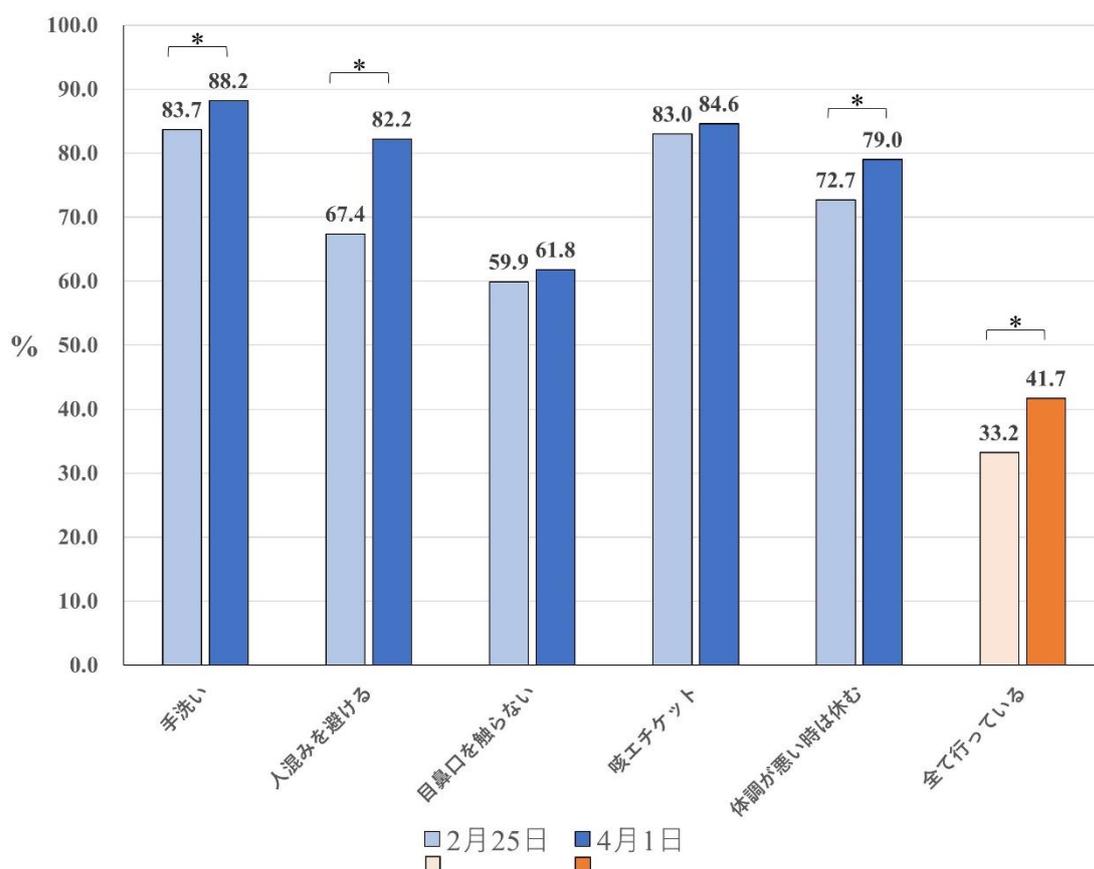


図. 日本の一般市民による予防行動の実施状況

論文情報

掲載紙： International Journal of Infectious diseases

論文名： Changes in implementation of personal protective measures by ordinary Japanese citizens: a longitudinal study from the early phase to the community transmission phase of the COVID-19 outbreak

著者名：町田 征己、中村 造、齋藤 玲子、中谷 友樹、埴淵 知哉、高宮 朋子、小田切 優子、福島 教照、菊池 宏幸、小島 多香子、渡邊 秀裕、井上 茂

DOI：10.1016/j.ijid.2020.05.039

参考文献：

1. World Health Organization (WHO), Basic protective measures against the new coronavirus. <https://www.who.int/emergencies/diseases/novel-coronavirus-2019/advice-for-public>

【問い合わせ先】

東京医科大学 公衆衛生学分野 氏名: 町田 征己、井上 茂

E-mail: TMUPHIC.2020@gmail.com